

演奏者紹介



チャールズ・キャッスルマン(ヴァイオリン・ヴィオラ) Charles Castleman (Violin-Viola)

ハーバード大学、カーティス音楽院、ペンシルヴァニア大学を卒業。その間、チャイコフスキー、ブリュッセル各コンクールに入賞している。ソリストとしてはボストン、シカゴ、ニューヨーク、フィラデルフィアなどのオーケストラと共演、また室内楽奏者としては、新ニューヨーク弦楽トリオを経て、1975年にラファエルトリオを結成、多くの録音を行なっている。バックネル大学において、彼が設立した

カルテットのマスタークラスは25周年を迎えており、「最良かつ実践的なプログラムである」(ヨーヨー・マ)、「若きカルテット奏者たちのメッカ」(ガルネリ・カルテット)などの評価を得ている。イーストマン音楽院の教授として後進の指導に当たっているほか、ロンドン、東京、上海でもマスタークラスを持っている。



コンラード・エレギアス(ヴァイオリン) Koenraad Ellegiers (Violin)

ヴァイオリニストである父親より手ほどきを受ける。その後アルトゥール・グリムオー、ティボール・ヴァルガに師事。またシャンドール・ヴェーグ、ユーディー・メニューヒンのマスタークラスに参加し、各氏の薫陶を受ける。ソリストおよび室内楽奏者として、メニューヒン・グシュタド音楽祭、オーストラリア室内楽音楽祭ほか、世界各地の数多くの音楽祭より招かれている。教育者としては、イタリア、スイス、アルゼンチン、スペイン、韓国でマスタークラスを持ち、またエッセン音楽大学において長年室内楽クラスを受け持ってきた。



浦川宜也(ヴァイオリン) Takaya Urakawa (Violin)

鈴木鎮一、小野アンナに師事し、1953年に音楽コンクール入賞。近衛秀麿に認められてデビューを果たす。1959年、西ドイツ給費留学生として渡欧。M. シュヴァルベ、W. シュトロスに師事。1964年、ミュンヘン国立音楽大学を首席最優秀賞で卒業。1965年、大指揮者J.カイルベルトに認められ、ハンベルク交響楽団第一コンサートマスターに就任。1969年、ソリストとして独立。以来旧西ドイツを中心に、ヨーロッパ各国で演奏活動を行う。1979年、名ピアニスト、フランツ・リップとのベートーヴェン、ブラームスの全ソナタの録音で注目をあつめる。1986年、ドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字章を贈られる。現在ソリストとして活躍するほか、東京芸術大学教授、数々の国際コンクール審査員を務める。



ヤルン・ヴァウツトゥラ(ヴァイオリン・ヴィオラ) Jeroen Woudstra (Violin-Viola)

9歳よりヴァイオリンを始め、1985年オランダのユトレヒト音楽院に入学。P. ヒルシュホルン、綿谷恵子両氏に師事する。その後ヨーロッパ・モーツァルトアカデミーの奨学金を得、同アカデミーにおいてB. ベルガメンチコフ、A. シュマチェンコ、シャンドール・ヴェーグ、橋本京子の各氏より室内楽を学ぶ。現在室内楽奏者としてヨーロッパ各国の音楽祭などで活躍している。



トビー・ホフマン(ヴィオラ) Toby Hoffman (Viola)

ジュリアード音楽院にてポール・ドクトリに師事。ライオネル・ターティス国際ヴィオラ・コンクールでサー・ジョン・バルビローリ賞受賞のほか、幾つかの国際コンクールに入賞。ソリストとしては、フィラデルフィア管弦楽団、アメリカ室内オーケストラ、ブラハ室内オーケストラ等々と共演。また、マールボロ、アスペン、モーストリー・モーツァルト、ザルツブルグなどの音楽祭に招待されている。室内楽奏者としてもアンドレ・プレビン、サルヴァトーレ・アッカドとたびたび共演している。



カーستن・ジョンソン(ヴィオラ) Kirsten Johnson (Viola)

3歳でヴァイオリンを始め、15歳でヴィオラに転向。17歳でシカゴ交響楽団と共演する。カーティス音楽院でマイケル・トゥーリーに師事し、学位を取得。その後ジュリアード音楽院でサミュエル・ローズに師事。1997年のワシントン国際コンクール優勝のほか、幾つかのコンクールで優勝。室内楽奏者としても、マールボロ音楽祭をはじめ多くのフェスティヴァルに招かれ、'98-'99のシーズンには「ミュージック・フロム・マールボロ」ツアーに参加した。



トゥーバ・オズカン(ヴィオラ) Tuba Özkan (Viola)

1987年アンカラ国立音楽院を最優秀で卒業。1987年から89年までアンカラ・プレジデンシャル・シンフォニック・オーケストラ、またアンカラ室内オーケストラのヴィオラ奏者として活動。1989年には、ドイツ政府給付奨学生として、ベルリン芸術大学に留学し、ブルーノ・ジュランナ教授に師事、最優秀で卒業。その後1991年までベルリン・ユンゲ・フィルハーモニー室内オーケストラの首席ヴィオラ奏者。1998年よりイスタンブール国立管弦楽団のヴィオラ奏者、ボルサン室内オーケストラの首席ヴィオラ奏者として活躍している。



ヤンチャン・チョー(チェロ) Young-Chang Cho (Violoncello)

デヴィット・ソイヤー、ローレンス・レッサー、ジークフリート・バルム、ムスチスラフ・ロストロポーヴィッチに師事。ロストロポーヴィッチ、パブロ・カザルス、ミュンヘンの各コンクールに入賞。また二人の姉妹(ヤンミー・チョー、ヤンリン・チョー)とのピアノトリオでも、ジュネーブ、ミュンヘンの両コンクールに入賞している。ソリストとして、ロストロポーヴィッチ指揮のワシントン・ナショナル管弦楽団のほか、NHK交響楽団、ソフィア・フィルハーモニー等々のオーケストラと共演。1987年よりエッセン音楽大学教授として後進の指導に当たっている。



クリストフ・リヒター(チェロ) Christoph Richter (Violoncello)

5歳でピアノを始め、8歳でチェロを始める。15歳でアンドレ・ナヴァラに師事し、その後ピエール・フルニエに師事してさらなる研鑽を積んだ。23歳の若さで北ドイツ放送交響楽団のソロ・チェロ奏者となり、7年間そのポストを務める。パリ・ロストロポーヴィッチ・チェロ・コンクール、ゲンフ音楽コンクール等々のコンクールで入賞。ソリストとしては、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団ほか、数多くのオーケストラと共演している。室内楽奏者としては、ケルビーニ弦楽四重奏団のメンバーとして活躍するほか、アンドラシュ・シフ、ハインツ・ホリガー、タデア・ツェンマーマン、ザビーネ・マイヤーなどとたびたび共演している。教育者としてはエッセン音楽大学教授の任にあり、後進の指導に当たっている。



ナサニエル・ローゼン(チェロ) Nathaniel Rosen (Violoncello)

6歳でチェロを始める。12歳の時、伝説的なチェロ奏者ピアティゴルスキーに出会い、弟子となる。それは師が亡くなる1976年まで続いた。その間、ピアティゴルスキーはもとより、ヤッシャ・ハイフェッツとも数多く共演している。彼のアメリカにおける最初の名声は、1977年、ナウムブルグ・コンクールによって得られた。翌年、アメリカ人のチェリストとしてはじめてチャイコフスキー・コンクールに優勝(その後チェロ部門でアメリカ人の優勝者はいない)。その名声は世界的なものとなった。

以後、世界一流のオーケストラ(ニューヨーク・フィルハーモニック、チェコ・フィルハーモニック、ライプツィヒ・ゲヴァントハウスなど)にソリストとして招かれている。演奏家としてはもとより、教育者としても活動し、イリノイ大学を経て現在マンハッタン音楽院において後進の指導に当たっている。



ウルリッケ・シェーファー(チェロ) Ulrike Schäfer (Violoncello)

クルト・エンゲルト、ルドルフ・メツマヒャー、ウィリアム・ブリーズに師事。ドイツ国内外の数多くのコンクールに入賞(1970年、72年、74年西ドイツ学生コンクール、1980年パブロ・カザルス・コンクール、1982年チャイコフスキー・コンクール、1982年ARDコンクールなど)。また、ジャクリーヌ・デュプレ、ナタリア・シャホスカヤ、ムスチスラフ・ロストロポーヴィッチのマスタークラスに参加。現在、ケルンのギヨルムニヒ管弦楽団(ケルン歌劇場管弦楽団)の首席チェリストを務めるかわら、ソロ、室内楽に幅広く活躍。



田中洪至(コントラバス) Hiroshi Tanaka (Contrabass)

東京芸術大学音楽学部卒業。東京フィルハーモニー交響楽団首席コントラバス奏者を経て、1974年ウィーンへ留学。オーストリア国営放送管弦楽団、同時にウィーン室内オペラ座オーケストラを経て1981年帰国。室内楽奏者としてもウィーン、ザルツブルクをはじめとするヨーロッパ各地の音楽祭に参加。現在、「東京カマー・コレゲン」代表。



橋本京子(ピアノ) Kyoko Hashimoto (Piano)

東京生まれ。アムステルダムに住み、欧米を中心に活躍するピアニスト。桐朋学園大学を卒業後、スイスのメニューヒン国際アカデミーに留学。その後、インディアナ大学、ジュリアード音楽院で研鑽を積む。1985年より活動の本拠をヨーロッパに移す。国際フランス音楽コンクール1位大賞と聴衆賞、1980年ブダペスト国際音楽コンクールで最優秀伴奏者賞、1988年にはショポア国際コンクールでピアニスト賞受賞。定期的にヨーロッパ各地で演奏会を行なう一方、室内楽アンサンブルを主宰し、高い評価を得ている。世界の著名な国際音楽祭に招待されて演奏し、国際コンクール公式伴奏者としても評価されている。多くの一流演奏家とも多数共演。現在、演奏活動のかたわら、ユトレヒト音楽院、ブラハ国際室内楽アカデミー、ポーランドのググ・モーツァルトアカデミーにおいて、若手演奏家の指導に当たっている。



リチャード・スタインバック(ピアノ) Richard Steinbach (Piano)

コロラド大学、イーストマン音楽院を卒業。アイオワ大学において博士号(音楽芸術)を取得。1995年、フランス国際ピアノ音楽祭においてグランプリを受賞。1996年、パリのサル・コリトでソリストとしてデビュー後、アメリカ各地でリサイタルおよびオーケストラと共演。1998年6月には文化交流使節として中華人民共和国および日本(山梨市)で9回のリサイタルを開く。現在アイオワ州スーシターのブライアー・クリフ大学の教授として後進の指導にも当たっている。

箏吹川 国際 音楽祭 '99 10/8~16

今年の秋も世界各地から優れた演奏家たちが集い、「'99箏吹川国際音楽祭」が開かれます。箏吹川沿いの市や町で、卓越したクラシック音楽の演奏をお楽しみいただくことができます。

このたびの演奏に用いられる弦楽器は、そのすべてが、当地在住の弦楽器作家の手になるものです。つまりこの音楽祭は、世界各地で活躍する山梨生まれの楽器たちの里帰りでもあるのです。その点において、この音楽祭は世界でもほかに例を見ないものだといえます。

源流に子酉川(音取り=チューニング)支流に琴川、鼓川を有する箏吹川の流域、この地ほど音楽祭にふさわしい名を持つところはないのではないのでしょうか。

秋の夜、みなさまといっしょに素晴らしいひとときを創り出し、共有することができるこの音楽祭が、地域の文化に寄与するものとなることを願うものです。

99箏吹川国際音楽祭実行委員会